

教材名

「美しい夢 ーゆめぴりかー」【出典:「5年 生きる力」日本文教出版】
 主題名:ふるさとのじまん【C-17 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】

- 1 日時 令和2年9月3日(木) 6校時目
- 2 学年 第5学年 7名 第6学年 8名 計15名
- 3 ねらい 私たちの生活は、地域の発展のために尽くした先人達の多くの努力の上に成り立っている事を知り、受け継がれている地域の伝統や文化を大切にしようとする心情を育てる。
- 4 主題設定の理由

単元観

第5学年及び第6学年の指導内容C-17は、「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める」ことに関する内容項目である。

郷土のよさに気付くということは、その地域の自然や文化遺産、特産物を知ることだけではない。郷土を守り、発展させていくため、たくさんの人々の工夫や努力が積み重ねられていることに目を向けることも大切である。しかし、普段の生活の中で、郷土について考えたり、意識したりする機会はそれほど多くはない。

本教材を通して、北国のおいしい米作りに尽力する人々の粘り強い取り組みに着目することで、郷土のよさについて考えを深め、郷土に受け継がれてきた伝統や文化を尊重し、さらに発展させていこうとする心情を育てたい。

児童観

指導観

導入では、社会科の学習を想起させることから教材への導入を図る。「ゆめぴりか」のお米を実際に見せることで、教材への興味や関心を持たせる工夫を図る。

展開では、あき子の「ゆめぴりか」というお米への興味や関心への高まりを中心に話し合わせる。北海道は米作りに向いていないと思っていたあき子は、調べるうちに寒さに負けないおいしい米の品種作りに挑んだたくさんの人々の熱意に対して知っていくので、そこをしっかりと考えさせていきたい。

その後は、父が「ゆめぴりか」について話した気持ちを考えることで、郷土に誇りを持ち、伝統や文化を大切にしていきたいという心情を高めさせていく。

終末では、本校裏側にある「ウォーターランド建設経緯の話」や「上田町の末国地区の棚田の景観を整える活動」について振り返らせる。そのことで、地域社会の一員としての自覚を持たせ、郷土を愛し、郷土の発展に協力していく心情を育てていきたい。

5 本時の展開

(1) 評価について

【評価の観点】受け継がれている地域の伝統や文化の大切さを理解しようとしている。

【評価の方法】発言・道徳ノート

(2) 準備物

挿絵

(3) 展開

	学習過程	主な発問と予想される児童の心の動き 【○基本発問 ◎中心発問】	指導上の留意点(○) 準備物など(●) 評価(★)
導 入	① 「学習テーマの提示」 1 本時の学習への興味や関心を高める。	○「ゆめぴりか」というお米を食べたことがありますか。 ・あります。 ・ありません。 ・知りませんでした。	○「ゆめぴりか」の現物(お米)を見せ、教材への導入を図り、興味や関心をもたせる。
展 開	② 「追求活動」 2 教材「美しい夢—ゆめぴりか—」を読んで考え、話し合う。	○あき子は、どんな思いから「ゆめぴりか」について調べようと思ったのでしょうか。 ・どうしてこんなにおいしいお米が取れるようになったのかな。 ・お父さんの話が気になる。 ○「ゆめぴりか」について調べるうちに、あき子は開発に取り組んだ人のどんな思いに気が付いたのでしょう。 ・長い間、品種改良を続けてできあがったお米なんだ。 ・たくさんの方が地道に手作業をしてできあがったのだ。 ・何度も試験をしたり、味を確かめたりして本物のおいしさを追求してきたんだ。 ・一度は合格できなかった品種だが、地元の人々の強い思いがチャンスをつなげてきた。 ◎お父さんはどんな思いで、「郷土の誇り」と言ったのでしょうか。 ・「ゆめぴりか」には、おいしいお米を作りたいという人々の夢がこもっているから。 ・たくさんの人々の思いがこもった「ゆめぴりか」は北国の誇りだから。 ・地元を大切にしたい思いが、「ゆめぴりか」おいしさの秘密だから。	○「ゆめぴりか」について話すお父さんの様子から。あき子に先人の努力を必死に伝えようとする気持ちをつかませる。 ○北海道という郷土でぜひ、おいしいお米を作りたいという人々の気持ちを考えさせる。 ●中国新聞 みんなの新聞コンクール ジュニア新聞の「西川家の米作りの秘密の紹介〔西川君制作〕」のお祖父さんから聞き取った「米作りで特に工夫している点」や「米作りのたいへんなところは？」を紹介することで、米の品種をさらに改良していく大変さや苦労を想像させる。 ○問い返し発問として、「野菜(ジャガイモ、ゆりね、トウモロコシなど)では全国一の生産量を誇っているのに、どうして米づくりにこだわったのだろうか。」と聞き返すことで、開発に関わってきた人々の熱意を考えさせる。 ○地域を愛し、地域をよくしたいという人々の強い思いが、「ゆめぴりか」を生んだことに父の思いから気付かせる。 ★郷土の先人達が努力した思いや願いについて、自分事として受け止めることが出来たか。 (発言・道徳ノート)

<p>終末</p>	<p>③ 「児童一人一人のふりかえり」 3 本時の学習から自分たちの生活について振り返る。</p>	<p>○私たちの「地域の自慢」には、どんなものがありますか。それらを受け継いでいる人たちはどんな思いなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末国地区の棚田 ・ウォーターランド ・郷の里（コンビニ） <p>・地元のひとの生活をもっとよくしたい。 ・地元のよさをたくさんの人に知って欲しい。 ・川西愛への思い。</p>	<p>○身の回りある地元の名所（上田町の末国地区の棚田、ウォーターランドなど）や祭り（ウォーターランド祭、ふれあい祭）に目を向けて、それらを受け継ぐ人々の思いを話し合うことで、自分たちも地域を大切にしようという心情を高める。</p> <p>★自分自身の地域のよさを話し合うことで、多様な視点から、地域のよさに気付くことができたか。（発言・話し合いの様子）</p>
-----------	---	--	---

6 板書計画

長月 三日
ふるさとのじまん
美しい夢ーゆめぴりかー

○「地域の自慢」には何があるか。
受け継ぐ人にはどんな思いがあるのか。
・「ウォーターランド」
・「末国地区の棚田」
・地域の人の生活をもっとよくしたい。
・地域のよさをたくさんの人に知ってもらいたい。

○どんな思いで「郷土の誇り」と言ったのか。
・人々の思いが詰まっている。・北国の誇りのお米だから。
・地元を大切にしている思いがおいしさの秘密。

○あき子は開発に取り組んだ人の
どんな思いに気が付いたのか。
・品種改良を続けてきた。・地道な手作業があった。
・おいしいお米を追求した。・地元の人の強い思い。

○あき子はどうして「ゆめぴりか」
を調べようとしたのか。
・どうして作ったのか。・父の話が気になる。

「ゆめぴりか」というお米？
・知らない。・聞いたことない。





あき子
とうさん お父さん